

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	88人	算数	88人	理科	89人
第5学年	国語	71人	算数	71人	理科	71人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

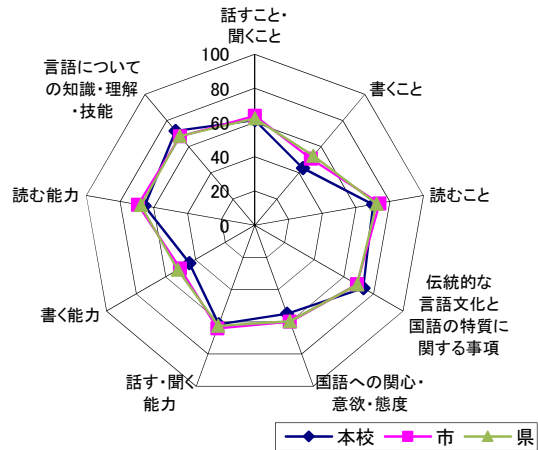
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	61.5	64.0	62.5
	書くこと	43.7	50.9	53.1
	読むこと	70.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.2	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	54.9	59.9	59.7
	話す・聞く能力	61.5	64.0	62.5
	書く能力	44.1	50.4	52.0
	読む能力	65.4	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	72.0	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

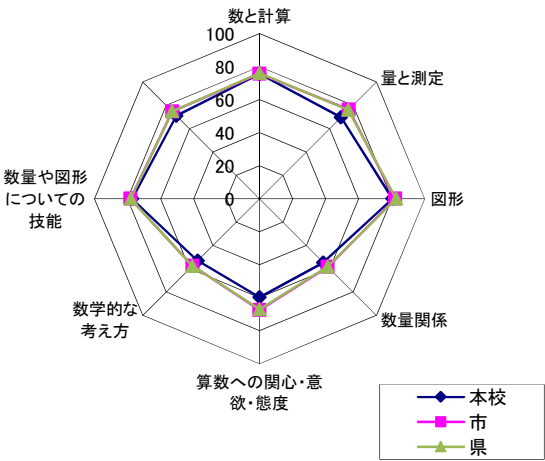
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は61.5%で、市を2.5ポイント下回る。 ○話し合いにおいて、大事なことを落とさないように聞き取ることや課題に沿った意見と理由を考えて話すことは概ねできている。 ●インタビューにおいて、聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えることに課題がある。	・ペア学習やグループ学習を取り入れ、お互いの考えを伝え合う活動を通して、自分の考えをまとめることに慣れさせる。 ・実際にインタビューする活動を取り入れ、調べることや質問したいことを考える活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は43.7%で、市を7.2ポイント下回る。 ○2段落構成で文章を書くことは概ねできている。 ●指定された長さで文章を書くこと、理由や事例をあげて文章を書くことに課題がある。	・自分の意見と理由を書く活動を意図的に取り入れ、書くときの条件や字数制限を指定して目的をもって書けるようにする。 ・定期的に日記を宿題に出し、出来事をまとめる活動に親しませる。
読むこと	平均正答率は70.2%で、市を3.7ポイント下回る。 ○物語の登場人物の気持ちや、説明文の内容を的確に読み取れることは概ねできている。 ●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取れることに課題がある。	・接続語やキーワードに注目しながら文章を読ませ、段落の役割や段落と段落の関係についての理解をしながら読めるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は73.2%で、市を4.3ポイント下回る。 ○第3学年配当漢字を読むことや書くことはよくできている。 ●文の構成(主語と述語)についての理解や、国語辞典の使い方への理解に課題がある。	・単元の振り返りや作文指導などで主語と述語を意識させる。 ・国語辞典の使い方を確認する活動を取り入れる。また、単元ごとに意味調べをする機会を設け、国語辞典の使用頻度を増やすことで、使えるようにしていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.6	75.8	76.1
	量と測定	69.7	76.5	76.0
	図形	80.4	82.1	82.7
	数量関係	54.6	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	59.7	67.4	67.0
	数学的な考え方	53.1	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	77.3	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	71.3	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

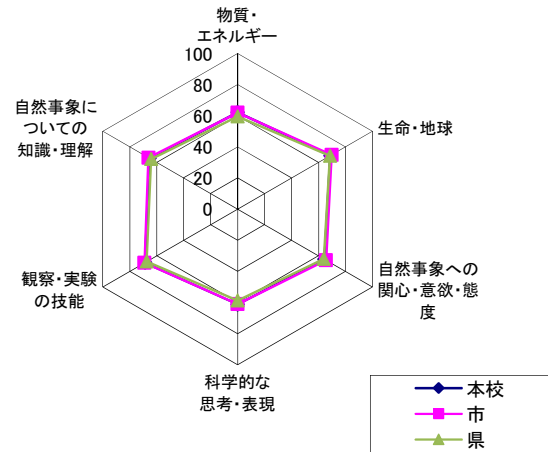
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は75.6%で、市と同程度である。 ○小数の仕組みや相対的な大きさについては、全体的に理解している。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解に課題がある。	・文章題を解く際には、問題文に下線を引き、何を求めるのかを明確にしてから立式させるようにし、数の意味を理解させるようにする。
量と測定	平均正答率は69.7%で、市を6.8ポイント下回る。 ○ある時刻からさかのぼった時刻を求める問題はよくできている。 ●道のりの意味と比べ方や、はかりの読み方について課題がある。	・スキルタイムや家庭学習で、道のりや重さの単位を繰り返し練習させ、定着を図る。 ・地図上の道のりを調べたり、2つ道のりの大きさを比べたりする練習を繰り返し行い、考え方を定着させていく。 ・はかりの読み方について、他教科や日常生活で活用が図れるようにする場を設け、正確に読み取れるようにする。
図形	平均正答率は80.4%で、市を1.7ポイント下回る。 ○球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める問題は、できている。 ●円の直径についての理解や、正三角形の作図について課題がある。	・スキルタイムで、いろいろな図形を、用具を適切に使って正確に作図する練習を繰り返し行い、作図力を伸ばす。 ・作図したものには、辺の長さ、直径・半径などの長さや角の大きさなど、作図に使用した数量は必ず記入するように指導する。
数量関係	平均正答率は54.6%で、市を3.8ポイント下回る。 ○□を使った文章問題(減法の場面)を表した図の構造について答える問題は、よくできている。 ●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフを書くことができない理由を説明することについて課題がある。	・実際にグラフを書く経験を多くさせ、値に合わせて適切に目盛りをつけることを身につけさせる。 ・いろいろなグラフを読み取る際、まず目盛りの大きさに着目する習慣をつけさせる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.1	61.9	59.4
	生命・地球	68.7	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.4	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	61.1	61.0	58.8
	観察・実験の技能	68.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	65.3	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は62.1%で、市を0.2ポイント上回る。 ○トンボとクモが昆虫かどうか見分ける問題は、正解率が93.0%であり、理解しているといえる。 ○植物のからだのつくりを問う問題や遮光板を使って太陽を観察する問題において、よく理解している。 ●温度計を正しく読む問題や、植物の種をまいて正しく世話をする問題においては課題がある。	・実験器具の正しい操作方法が身に付けられるように、一人一人が実験や観察を行う機会をきちんと設ける。 ・実験・観察をする際、ただ実験や観察をするのではなく、何を調べるために実験や観察をしているのかを考えさせながら活動を進めていく。さらに、実験・観察を通して分かった結果を正しく記録したり、考察したりして、実験・観察の結果を正しい知識・理解に結び付けていく。
生命・地球	平均正答率は68.7%で、市を1.1ポイント下回る。 ○鏡ではね返した光の進み方の問題や電流の導線を正しくつなぐ問題、磁石のどのような性質を調べるための実験かを類推する問題においては、いずれも市平均を上回り、理解している。 ●2つのおもちゃを比較して、ゴムのはたらきについて推測する問題においては、課題がある。	・思考力・表現力を伸ばすために、授業の初めにしっかりと学習課題を示し、目的をもって実験・観察に取り組めるようにする。また、授業の最後の振り返りを、学習課題と関連付けて書けるように指導していく。 ・実験の結果から考察したり、理由を考えたりする力を伸ばすために、実験・観察した結果から、何が分かるのかをグループで考え、比較・検討したり、全体で発表したりするなど、比べて考えたり、自分たちの言葉で説明したりできるようにしていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は69.4%であり、市の平均を9.2ポイント上回っている。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は71.8%であり、市の平均を10.1ポイント上回っている。これは、宿題のほかに自主学習をする習慣がついてきている表れと考えられる。今後も、今日の授業の復習をするという目的を明確にして自主学習に取り組ませ、家庭学習の定着を図っていききたい。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的回答は55.3%であり、市の平均を6.1ポイント下回っている。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答は76.4%であり、市の平均を6.4ポイント下回っている。今後は、難しい問題でも、一人で粘り強く解決していけるように、個の学びを充実させていきたい。さらに、個の学びを充実させるために、グループ学習を効果的に取り入れ、様々な解決方法を学べる機会を設けていきたい。

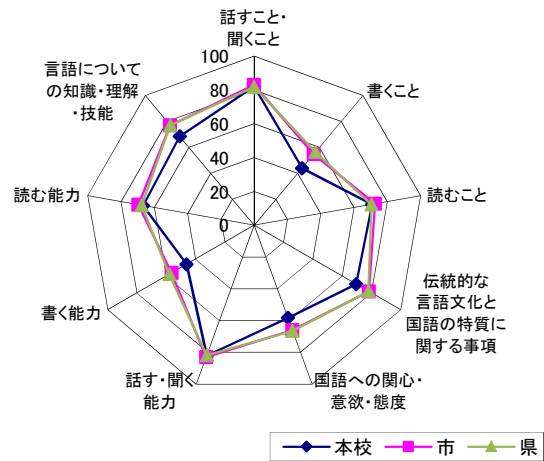
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は91.2%であり、市の平均を4.3ポイント上回っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答は92.9%であり、市の平均を9.3ポイント上回っている。さらに、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答は85.9%であり、市の平均を9.9ポイント上回っている。これは、児童の学力向上のために日常的にペア学習やグループ学習を取り入れている成果であると考えられる。今後も適宜、ペア学習やグループ学習を取り入れ、児童が主体的に話し合いに参加できるようにして、深い学びのある授業づくりに取り組んでいきたい。

●「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答は80.0%であり、市の平均を2.4ポイント下回っている。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は61.2%であり、市の平均を6.7ポイント下回っている。これは、自己肯定感が十分に育っていない児童がいると考えられる。今後は、認め、励ます指導を充実し、達成感を味わわせ、自信をもつものごとに取り組めるようにしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.1	82.9	81.8
	書くこと	44.0	54.8	56.5
	読むこと	70.8	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.6	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	58.3	66.0	66.4
	話す・聞く能力	82.1	82.9	81.8
	書く能力	46.2	56.3	57.9
	読む能力	66.7	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.6	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

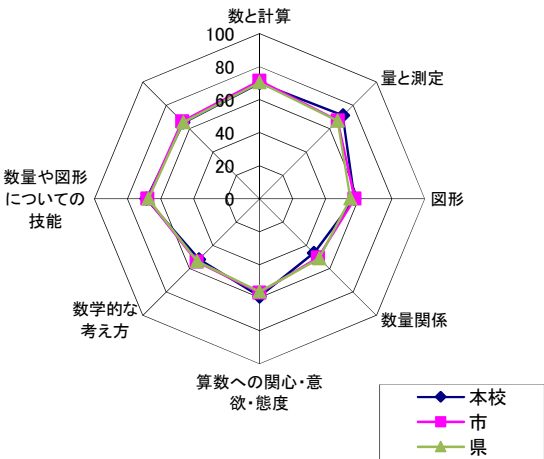
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は82.1%で、市を0.8ポイント下回る。 ○話し合いにおいて、話し方の工夫に注意して聞き取ることはよくできている。 ●話し合いにおいて、司会者の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることに課題がある。	・話し合いの活動において、友達の意見を比べながら聞いたり、同じところを見つけたりするなど復習し、理解を図る。 ・グループ学習の中で互いの立場や意図を明確にしながらか話し合い、出てきた意見の共通点を見つけたり、まとめた活動を取り入れていく。
書くこと	平均正答率は44.0%で、市を10.8ポイント下回る。 ●情報を適切に読み取り、指定された長さで文章を書くことに課題がある。また、無回答者も多い。	・文の構成に注意をしながら、書きたいことの中心を明確にして文章を書く活動を日記等で続ける。 ・書き表しやすい題材を選んで書いたり、友達同士で文章を比べたりして、書くことへの抵抗をなくすようにする。
読むこと	平均正答率は70.8%で、市を1.8ポイント下回る。 ○物語の登場人物の気持ちを読み取ることや、説明文の内容を的確に読み取することは概ねできている。 ●段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取ることには課題がある。	・物語文では、場面の様子を押さえながら読んだり、登場人物の気持ちの変化を理解しながら読めるようにしていく。 ・説明文では、接続語やキーワードを捉えたり、全体の中で段落と段落の関係やまとまりについて理解させたりしながら読むことで、文章の内容を正確に読み取れるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は69.6%で、市を8.8ポイント下回る。 ○指示語の使い方はよく理解できている。 ●漢字の読み書きや、文の構成(連用修飾語)の理解に課題がある。	・主語・述語や、修飾語などは、既習の内容でも授業の中で意図的に扱うようにして、定着を図る。 ・既習の漢字は必ず使うようにすることを徹底し、単元の最後に出てくる言葉のまとめでも既習の文法に触れるようにしていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.1	71.5	70.4
	量と測定	71.4	67.0	66.9
	図形	57.4	57.6	55.0
	数量関係	46.5	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	59.2	57.0	56.3
	数学的な考え方	51.9	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	68.6	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	65.3	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

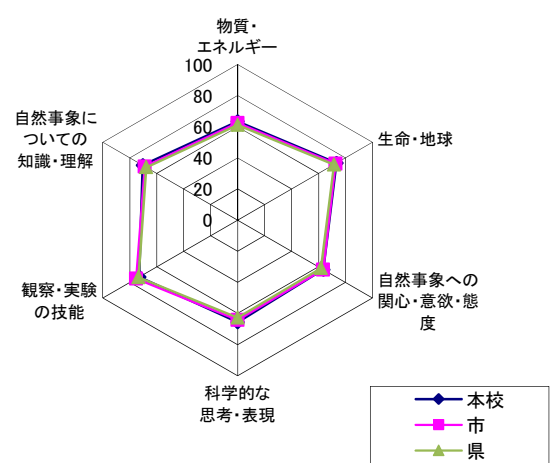
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は70.1%で、市を1.4ポイント下回る。 ○小数の引き算や分数の引き算に関しては、概ねできている。 ●小数と整数の足し算や真分数と帯分数の足し算の計算に課題がある。	・朝のスキルタイムの時間や家庭学習での復習プリントや四則のドリル学習に繰り返し取り組むようにさせ、既習計算の復習を積み重ねていく。
量と測定	平均正答率は71.4%で、市を4.4ポイント上回る。 ○角の大きさや面積は、よくできている。	・基礎的な問題に繰り返し取り組みせ、図形の量感や考え方を定着させるとともに、より複雑になった図形の面積の量感をつかませたり、文章題も課題として取り組みせたりしていく。
図形	平均正答率は57.4%で、市を0.2ポイント下回る。 ○ひし形の作図や垂直な辺を問う問題は、概ねできている。 ●四角形の対角線の性質を問う問題に関しては課題がある。	・図形の書き方の習熟を図る。コンパスや分度器、三角定規を正しく使えるように引き続き指導していく。 ・作図に充てる時間を十分に確保したり、友達と教え合ったりするなど、体験的な活動を十分に取り入れ指導していく。 ・対角線だけではなく、様々な四角形がもつ性質を今一度家庭学習などで復習させる。
数量関係	平均正答率は46.5%で、市を3.7ポイント下回る。 ○折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題は、概ねできている。 ●四則の混じった式の計算順序を問う問題に課題がある。	・計算だけではなく、根拠をもとに言葉として説明ができるように、授業中にペア学習やグループ活動を積極的に取り入れ、言葉で表現する機会を設ける。 ・スキルタイムや家庭学習での四則のドリル学習に繰り返し取り組むようにさせ、計算技能の習熟に努める。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.3	62.4	61.1
	生命・地球	73.3	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.5	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	65.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	73.0	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	70.4	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は63.3%で、市の平均を0.9ポイント上回る。 ○空気でっぽうで空気を押し込めたときの手ごたえと、空気の元に戻ろうとする力によって玉が飛ぶことを理解する問題は、概ねできている。 ○水の温度変化と体積の変化についての関連の問題も、概ねできている。 ●空気の温まり方について理解する問題に、課題がある。	・空気、水、金属の温まり方について、実験から分かったことをイメージ図に表現し、理解を深められるようにする。 ・実験を多く取り入れ、体験を伴った授業をすることにより、児童の興味関心を高め、理解につなげていく。
生命・地球	平均正答率は73.3%で、市の平均を0.8ポイント上回る。 ○半月の動き方の問題は、概ねできている。 ○容器にふたがあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解する問題は、概ねできている。 ●筋肉が縮んだり、緩んだりすることで身体が動くことを理解する問題に課題がある。 ●月の形の名称を理解する問題に課題がある。	・ヒトの体の筋肉の仕組みを調べるために、実験や観察をしていることを確認し、めあてやねらいを明らかにして授業を進めていく。また、めあてやねらいに沿って、実験から分かったことを書けるようにしていく。 ・日頃から実生活に基づいた月や星の話をし、児童が月や星に興味をもてるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答は、81.7%で、市の平均を9ポイント上回っている。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は、74.7%で、市の平均を10.6ポイント上回っている。これは、家庭学習において高学年としての目標時間を定め、授業で習ったことの復習やテストで間違えた問題の勉強に自ら取り組む習慣が身に付いてきている表れと考えられる。今後も、授業で扱った基礎・基本を確実なものとするため、その日に学習したことの復習を中心に自主学習に取り組ませ、家庭学習の定着を図っていききたい。

●「1か月に、何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」について、11冊以上読む児童が8.5%で、市の平均を13.8ポイント下回っている。一方、0～2冊と答えた児童は33.8%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。「学校の授業時間以外に、普段一日当たりどれくらいの時間、読書しますか」についても、全くしない児童が25.4%で、市の平均を8.3ポイント上回っている。計画的な読書活動を取り入れたり、少しの時間でも本に触れる習慣を身に付けさせるなど、活字に触れる時間を増やしていききたい。

○「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」について、2時間未満が57.7%と市の平均を7.9ポイント上回っている。また、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」についても、1時間未満が46.5%と市の平均を3ポイント上回っている。どちらも、児童にとっては興味のあるものであるが、それぞれ3時間以上の割合も少ない結果となっており、家庭で時間を決めたり、ルールを設けたりして節度を保つことで、落ち着きのある生活が送れていると言える。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定的回答は47.9%で、市の平均を9.2ポイント下回っている。また、「自分の行動や発言に自信を持っている」の肯定的回答は56.3%で、市の平均を8.1ポイント下回っている。間違えることを恥ずかしがったり、失敗することを恐れたりすることがないよう、学級の中で友達と温かく関わり合ったり、互いに認め合ったりする機会を意図的に設け、自己肯定感を高めることで、自信を持って取り組めるようにしていききたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく表現する力の育成	全ての学年で、ペアやグループで互いの考えを伝え合ったり、相談したりする場を意図的に設けたり、自分の考えを書き表す活動を多く取り入れたりする。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定割合は4年生では市平均を9.9ポイント上回っていて、5年生では1.3ポイント上回っている。 しかし、4年生、5年生ともに、国語の「書くこと」に関わる問題において、全ての設問で市平均を下回っている。
基礎基本の確実な定着を図る指導	全ての学年で、基礎・基本の確実な定着を図るために1時間の授業の「めあて」を児童にしっかり提示し、授業の終末には「まとめ」を行い、「ふり返し」を書く時間を確保する。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」の肯定割合は、4年生は4.7ポイント下回っていて、5年生は0.4ポイント上回っている。 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定割合は、4年生は9.4ポイント上回っているが、5年生は2.8ポイント下回っている。 「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定割合は、4年生は1.3ポイント上回っているが、5年生は5.7ポイント下回っている。
家庭学習の習慣化を図るための指導	家庭学習のヒント集を家庭に配付し、低・中・高学年で目指す家庭学習の時間や内容を知らせている。また、学年に応じて、宿題以外にも自主学習に取り組むようにしている。	「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は、4・5年生ともに県平均を10ポイント以上、上回っている。 しかし、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は5年生が県平均を下回り、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の肯定割合は4年生が県平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年生、5年生ともに、国語の「書くこと」に関わる問題において、全ての設問で県平均を下回っている。	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどを書くことができる指導の工夫	国語の授業の中で、自分の考えや理由を書く活動を確保する。また、相手や目的を意識させることにより、書くこととすることの中心を明確にして書くように指導していく。 さらに、物語文や説明文の読み取りの学習の中で、文字数の制限や使う言葉を指定するなど、条件を加えて、抜き出して書く学習に取り組む。また、叙述を基に、簡単に書いたり詳しく書いたりする学習に取り組む。